

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R5 ウエイト	R4 実績値	R5 目標値	R5 実績値 〔見込値〕	R6 目標値	R6 ウエイト	中期経営計画 (R4~R6)		R6目標設定の考え方 (数値の補換) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R6 目標値	最終年度 目標値		
② 博物館利用者の拡大	日本民家集落博物館入館者数		人	8	26,110	27,000	×25,204	29,300	8	30,500	37,500	R5年度実績ならびに中期経営計画による最終年度目標値を踏まえて設定	・服部緑地の指定管理者など民間事業者等との連携し服部緑地10月祭への協賛・参加事業として、体験イベント「秋の民家まつり」を開催したりや、民家を活用したクラシックコンサートやコスプレ等のイベントの誘致など趣向の異なる企画等により入館者増につなげる。 ・館内における四季折々の花々の開花状況やイベントの開催状況、展示民家や民具に関連する情報を様々な媒体で発信し、博物館の魅力を広く周知する
	学校等への営業件数(プロセス)		件	8	77	80	80	82	8	75	85	R5年度の実績ならびに中期経営計画による最終年度目標値を踏まえて設定	・学校訪問による継続的な誘致活動の実施 ・展示民家の元所在地自治体や旅行関連機関や施設への広報
	外国人入館者数		人	4	888	1,350	2,625	2,670	4	—	—	R5年度の実績ならびにコロナ禍以前の実績を踏まえ設定	・旅行会社や宿泊施設への広報や外国語表記の博物館案内提供
	オンライン動画の制作・配信数		件	8	4	6	6	↓4	8	—	—	全展示民家の解説動画作成が一巡したことから、さらなる魅力動画制作を進める	・展示民家の解説動画など、オンラインを活用して博物館の情報を効果的に発信することで、博物館の魅力を高め、来館意欲を喚起
	貸部屋等施設利用件数		件	4	58	81	98	113	4	—	—	R5年度の実績ならびにコロナ禍以前の実績を踏まえ設定	・展示民家を句会、展示会、撮影会等の会場として、貸出利用を広く発信することで、博物館の魅力を広く周知し、活用を促進

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

③	効率的な経営 (博物館事業の効果的実施)	利用者一人あたり経費 (事業費/利用者数)	円	4	1,068	866	〔×924〕	930	4	1,009	807	R6年度の日本民家集落博物館の当初予算事業費ならびに目標入館者数を踏まえて設定	・ホームページ・SNSなどインターネットによる情報発信を強化し、新たな来館者層の開拓を行う
	(効率的経営の推進)	埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積	m ²	10	1,813	2,670	×2,246	1,469	10	—	—	R6年度予定事業を踏まえて設定	・事業者と事前協議を綿密にとることにより遅延なく計画どおり遂行 ・若手職員への発掘調査技術の継承を確実に行うとともに、支援業者が有する測量技術などを援用しながら効率的に調査を遂行
	(安定的財基盤の確立)	当期経常増減額	千円	10	△155,168	△48,117	〔×△128,876〕	0	10	△120,873	0	公益財団法人として収支相償を目指す	・埋蔵文化財発掘調査の事業確保に加え、日本民家集落博物館事業において、来館者・施設利用者の増加を図り、収支相償を目指す
	(民家集落博物館展示民家保存修理のための自主財源の確保)	賛助金・寄附金	円	4	1,206,939	1,210,000	1,288,276	↓1,200,000	4	1,200,000	1,200,000	R5年度実績および中期経営計画を踏まえて設定	・企業等からの賛助金の休止・減額が続くなかあって、広報活動を進め、賛助金の提供再開・増額を働きかける

【凡例】
 ・☆はR6年度からの新規項目
 ・×は目標値未達成
 ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

{ 1 }

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
日本民家集落博物館入館者数	人	27,000	25,204	△ 1,796

未達成の要因					要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応
①	5月大型連休中および3月祝日土日の雨天等天候不順による来館者の減少				・5月大型連休期間中について、前年度実績並みを想定していたが、うち1日は大雨警報の天候により来館者が大幅減少したため。5月第一週の入館者数については、前年度約2,000人であったところ、当年度は約1,000人であった。 ・3月の入館者数増を期待できる祝日または土日が雨天となり、来館者が減少した。前年度約3,000人であったところ、当年度は約2,400人であった。					・服部緑地の指定管理者など民間事業者等との連携し服部緑地10月祭への協賛・参加事業として、体験イベント「秋の民集まつり」を開催したりや、民家を活用したクラシックコンサートやコスプレ等のイベントの誘致など趣向の異なる企画等により入館者増につなげる。 ・ホームページ・SNS・動画配信等を通じて博物館の存在と魅力を広くPRし、認知度を高める。雨天の魅力を配信し来館につなげる。
	関連項目名	入館者数	単位	人	R5当初想定値	5,000	R5実績値	3,400	差	
②	7月の猛暑による来館者の減少				・7月は連日大阪府内に熱中症警戒アラートが発出され、豊中市においては全国2位の最高気温を記録する日が続いたことから、外出を大幅に控える傾向になったため、来館者が減少した。もの。 ・7月の入館者数については、前年度約1,100人であったところ、当年度は約850人であった。					夏季期間に味わえる魅力ある行事を展開し来館につなげる。
	関連項目名	入館者数	単位	人	R5当初想定値	1,100	R5実績値	850	差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

[2]

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
利用者一人あたり経費	円	866	924	58

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応	
①	目標入館者数の減少			<p>・博物館の運営経費は物価や人件費の大幅な上昇の影響がある中で、ここ10年ほどの間は年間約21,000千円で推移しており、学芸員やスタッフ等の人件費、博物館の維持管理経費に充てられている。厳しい予算状況の中、これまで学芸員やスタッフの配置人数や勤務時間等の見直しを行い無駄のない経費執行を行ってきた。</p> <p>・目標入館者数27,000人を見込み、利用者一人あたり経費を算出しており、実績25,000人であり、2,000人の不足であったため。</p> <p>・5月大型連休の天候不順（△1,000人）、7月の猛暑（△250人）、3月の天候不順（△600人）のため。</p>					<p>・服部緑地の指定管理者など民間事業者等との連携し服部緑地10月祭への協賛・参加事業として、体験イベント「秋の民集まつり」を開催したりや、民家を活用したクラシックコンサートやコスプレ等のイベントの誘致など趣向の異なる企画等により入館者増につなげる。</p> <p>・ホームページ・SNS等を通じて博物館の存在、情報等魅力を広くPRし、認知度を高め、新たな来館を促す。季節に応じた情報を発信する。</p>	
	関連項目名	経費	単位	円	R5当初想定値	866	R5実績値	924		